

# ひなたぼっこ通信

2019年  
7月号

## ケアハウスから

「にぎやかな声援が響き渡る大運動会」1階  
毎年恒例の大運動会が行われました。今までの大運動会と異なるところは1階の利用者様とスタッフが白組、2階の利用者様とスタッフが紅組に分かれて実施されたところ。挨拶と選手宣誓が終わり、さあ競技の開始です。



「紅組がんばれ、白組がんばれ。」と、にぎやかな声援が会場を盛り上げます。競技によってはパワーとスピードが要求される種目もあり、日頃の練習が試される競技もありました。

チーム一丸となって行う事が出来たのは、みんなの大きな声援と笑顔が、力を合わせて勝つぞ！という結束力だったと感じます。

どっちが勝ったかな？負けちゃったかな？というワクワク感もあり、普段見る事が出来ないであろう職員の意外な一面が見られたりして、驚いた方もいるのではないかと思います。

今年も「みんなと楽しく出来てよかった。また

やろっねって」言っていただけの大運動会だったのではないかと感じました。

また利用者様に差し上げる景品は日頃の感謝の気持ちを込めてスタッフの手書きにより綴られた写真入りのカードでした。お金では買うことができない喜びや、スタッフの思いがご理解いただけたのではないかと思います。

来年はどんな大運動会になるか、今から楽しみにしています。利用者様、スタッフ、ボランティア、実行委員会の皆様、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。(K)

## 「改元の日の2階ホール」2階

元号が平成から令和へと改まった最初の日、ケアハウス2階ホールでは、その代替わりの模様を中継するテレビを、食い入



るように見つめていた利用者の皆様の姿がありました。その真剣な眼差し、気迫に圧倒された私は、もうすぐ始まるラジオ体操の放送を中止してもらおうべく1階事務所へと急いだのでした。いつもなら、ラジオ体操の始まる前で、世間話をされていたり、歌を歌っていらっしやったりと、にぎやかな時間帯にも関わらず、今日に限っては雰囲気が違うのです。息を凝らしてテレビ画面を見ている

方がいれば、中には目に涙を溜めてテレビ画面を見つめている方も数人いらっしゃいました。

思うに、この方々は昭和始め又は大正時代から百年程の年月を遅く生き抜いて来られたのです。青年期は日本国が世界を相手に大戦争を繰り広げていた時期で灰色と言っより暗黒の時代だったと思います。それが昭和20年8月15日を境に大転換が起こり、明るい希望が微かに見え始めたのでしょうか。でも現実には明日のお米をどうするか、仕事をどうするかといった、生きるに精一杯の時代ともなりました。

と同時に『現人神』として崇拜されていた天皇陛下が『人間宣言』をなされて日本国憲法でも『国民の象徴』と明記され価値観も大きく変わりました。家族関係では女性がお嫁さんとして厳しい舅・姑様に仕えていたのに、いざ自分の番が来ると逆にお嫁さんに気を遣い「子供達の世話にはなれない。」という風潮になってしまった、といったこともあるかもしれません。

戦後の混乱期、食へ物も乏しい中、生きていくために、一生懸命、一生懸命、働き、働き尽くして今の豊かな日本を築きあげて下さった方々です。様々なことを、改元のテレビ画面から「走馬灯のように」に、思い起こされたに違いありません。中には「令和」という字を毛筆で認められた方もおられます。その書は今、ケアハウスの廊下に張り出しています。今、ケアハウスで生活されている方々の多くが、「与えられた時代」にきちんと向き合い、時代とともに生き抜いてこられたのだ。そ

んな感慨をもちました。その方々に、如何にしたら本当に幸せな日々を実感していただけるのか、介護者としての想いと後悔が、日々続いているのです。(よ)

## 宅幼老所から

「高齢者と子どもが過ごせる場所」



私たちの施設では職員が子連れで出勤する事があり、多世代交流の場となっています。

昔は高齢者の方々、近所の方々積極的に子ども達に関わっていた時代がありました。そんな時代を過ごしてきた利用者様の多くは、自分の子どもや孫、曾孫などの小さな子どもに関わった経験のある方が多くいらっしゃいます。子ども好きの方も多く、連れてくると皆さん大変喜ばれます。フロアに響く子どもの元気な声は、ご利用者様に活力を与え、精神的な活性化につながっています。表情がいつも強張っている利用者様、落ち着かず常に歩き回っている利用者様、それらの多くの利用者様が子どもがいる日には常に笑顔になり、宅幼老所全体が明るい笑い声に包まれます。

利用者様の淡々と過ごす日々に、子ども達は刺激を与えてくれます。これからも、古き良き日本の「高齢者と子供たちの活発な交流」が見られるといいですね。(K)

## グループホームから「苗植え」 2階

6月の始め頃、苗植えができる入居者様と職員

で、ベランダにてミニトマトの苗植えを行いました。初めに、職員の方で鉢に土・肥料などを入れて、その次に、入居者様にミニトマトの苗を鉢に植えて頂きました。苗を植える時に、昔、畑仕事をしていた時のことを思い出したりしているのか、入居者の皆様は笑顔で苗を植えておられました。「トマトができるのが楽しみ。」と話され、食べられるようになる日を待ち望んでおられる様子でした。

### 「念願の踏採り」1階

グループホームの入居者A様が、踏を採りに行きたいとおっしゃっていました。若いころから、この季節には踏の料理をされていたので、踏が取れる季節になると、踏を採りに行きたくなるのでしょうか。それで、支援者と2人で踏を採りに行く日を相談させていただきました。



そしてその日、天気が心配されましたが、さいわい晴れたとても良い日になりました。お昼ご飯は、コンビニのパンがよいということで、途中でパンを買いながら現地に向かいました。私は土地勘もないうえに、踏のある場所も分からないので、A様の案内で踏のある場所に向かっていきます。A様は、しばらくぶりの風景の変化に「あれ、すっかり変わってしまったね。」と、びっくりされていました。それでも、踏のある場所はしっかり覚えてられていて「こっち！こっち！」と的確に案内をしてくださいました。私が驚いて「よく覚えてますね」と言うと、「んんん採りにきたんだもの、覚

えてるわよ」と言われました。

A様も車から降りて少し採られました。足場が悪く思う様には採れませんでした。その後車に乗り込んでいただき、声で指示をしていただくことになりました。「そこにも有る！あそこにも有る！」と言われ、採る方も大忙しです。「とても採りきれないですね。」とお伝えすると「採り切るなんてとても出来ないわよ。」と元気なお返事が返ってくるのでした。

偶然ですが、踏を採っているときに近所の知り合いやお孫さんにも出会いました。しばらく昔のことや、今の生活などのことで話に花が咲きました。

沢山の踏を採り終えて、A様は「沢山採れて良かった、これで頼まれていたみんなにも配れる。」「パンも美味しかったし、思いがけず近所の人や、孫にも会えたし、楽しかった！」と満足気におっしゃいました。そして、施設に戻ってからも疲れた様子も見せず、お元気な様子に驚かされました。料理した踏を美味しく頂いたり、それをみんなに配ったりと、念願の踏採りが無事に終わったのでした。  
※「放課後から」は今回お休みです。

来月の無料塾とフードバンクは7/21(日)です。ご予約ください。

発行 社会福祉法人ひなたぼっこ

理事長 森 正明

〒399-0211

富士見町富士見1-6500-1

TEL 02666-61-2635

FAX 02666-61-2636